

感染症による登園基準表

保育所 和光園

登園には、『学校感染症等に係る登校・登園に関する意見書』の提出が必要となります。  
用紙は入園のしおり使用するか、事務所にお声かけください。

平成27年4月～

	病名	潜伏期間	感染しやすい時期	主な症状	登園基準
1	インフルエンザ	1～3日	感染後約10日	発熱、全身倦怠、筋肉痛、咽頭痛、咳	発病後5日かつ解熱した後3日が経過し、全身状態が良好
2	百日咳	7～10日	感染後約3週	発作性咳の長期反復、持続	特有の咳が消失したとき
3	はしか(麻疹)	10～12日	発疹出現の前後4～5日	発熱、目やに、結膜充血、コプリック斑→発疹	発疹に伴う熱が下がった後、3日経過してから
4	おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	15～21日	明確な症状を示す7日前からそのあと9日続く	発熱、耳下腺、舌下腺、顎下線の腫脹及び圧痛	耳下腺の腫れが消失したとき
5	三日はしか(風疹)	14～21日	発疹出現の前後7日	顔面→頸部→体幹→四肢への発疹、軽熱、リンパ節腫脹	発疹が消失したとき
6	水ぼうそう(水痘)	14～21日	水泡発現前2～後6日	発熱、発疹、斑点丘疹状→水泡→顆粒状痂皮	すべての発疹がかさぶたになったとき
7	プー ル熱 (咽頭結膜熱)	5～7日	潜伏期後半～発症後約5日間	発熱、全身症状、咽頭炎と結膜炎の合併症	解熱し、主要症状がなくなった後、2日を経過してから
8	流行性結膜炎	5～12日	発病後約2週間	咽頭炎と結膜炎の炎症、リンパ節腫、目やに	治癒するまで
9	急性出血性結膜炎	1～2日	発病後約4日	流涙、結膜充血、眼瞼浮腫、滲出液	治癒するまで
#	ヘルパンギーナ	2～7日	1週間	高熱、咽頭痛、咽頭に水泡	解熱した後、食事も充分にできるようになったとき
#	※りんご病 (伝染性紅斑)		14～20日	顔面赤斑とくに頬部の赤斑性発疹	発疹出現時は感染力が少なくなっているため、元気がよければ登園可
#	溶連菌感染症	2～7日	抗菌薬内服後24時間が経過するまで	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌、頸部リンパ節炎、全身に発疹	(有効治療をはじめて2～3日たって)
#	乳児嘔吐下痢症 感染性胃腸炎	不定期	感染後1週間 (主にノロ、ロタ、アデノ)	発熱、腹痛、下痢、嘔吐、脱水	主症状がほぼ消失し、医師が登園を認めたとき
#	RSウイルス感染症	2～8日	乳児は3～4週間		重篤な呼吸器症状が消失し、全身状態が良好
#	マイコプラズマ感染症	14～21日	症状発現から4～6週間	咳、発熱、呼吸困難、鼻汁、食欲低下	症状が改善し、元気があれば登園可能
#	突発性発疹	10～15日	発熱中	発熱、解熱とともに全身に発疹	主な症状がほぼ消失し、医師が登園を認めたとき
#	ヘルペス口内炎	3～7日	水泡を形成している間	口内炎症	症状が改善し、食事が充分に取れる
#	带状疱疹			水ぼうそう(水痘)に準ずる	

※下記については、登園不可にはなりません、感染力が高いため、症状によって水遊びを制限する等、集団保育の場として十分配慮が必要です。

	とびひ (伝染性膿痂疹)	5～10日	水泡消滅まで	主として豆粒大の水泡自覚症状(あまりなし)	kannse			
	水いぼ (伝染性軟属腫)	14～50日		球状の水いぼ	化膿・悪化していない場合は、プール入水可能。			
	手足口病	2～7日	水泡消滅まで	感冒様症状、手足口に赤斑→水泡	悪化すると、治療の際に激しい痛みを伴う。			
					水泡が消滅、全身状態がよく、食事が充分に取れる			

※朝、必ず検温し、健康調べ表に記入してください。37.5度以上熱があるときは登園できません。

保育をしている途中で37.5度以上の発熱が認められた時は、保護者に連絡しますので、お迎えをお願いします。

※上記感染症以外でも、園の判断により登園許可書やお休みをお願いする場合があります。あらかじめ、ご理解のほどをお願いします。

※大きなけがや緊急を要するときは囑託医、看護師に処置や指示を受け対応します。